



# GREEN LETTER

グリーンレター

**Vol. 277**

2020/3/01

今月の一枚

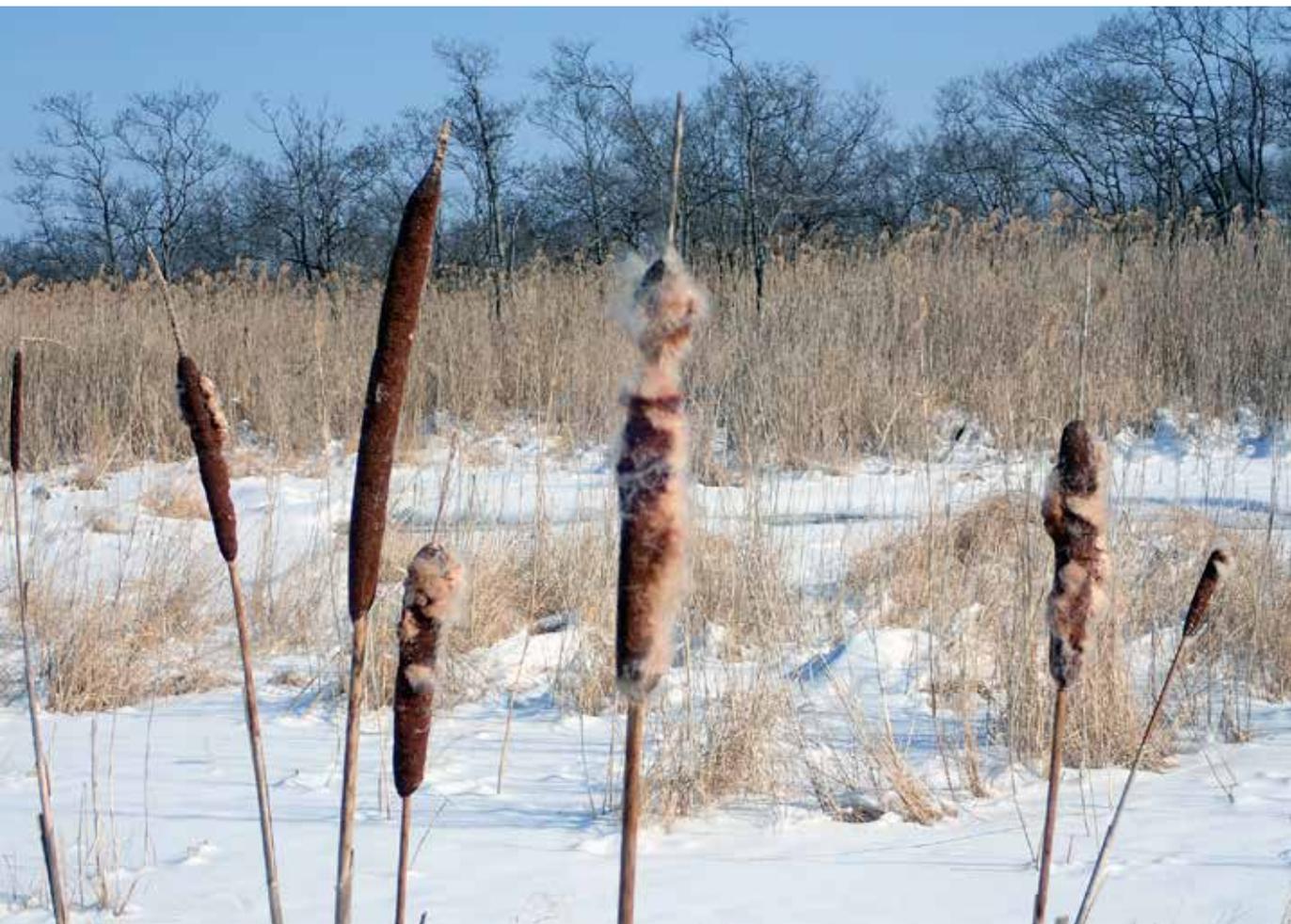
今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 蛍の光

02. キラキラ光る石に魅せられて



今月の一枚



**Photo**

## 「ウサギを助けたガマの穂」

表紙写真・文／鬼丸和幸

久しぶりに、気持ちの良い晴天に誘われ、重い腰を上げて、とある冬の湿原を訪ねてみました。誰もいない大雪原の中、ガマの穂が風に揺られていました。

神話「因幡の白ウサギ」の中では、サメに毛をむしり取られて困っているウサギを、通りかかったオオクニヌシノミコトが、ガマの穂綿を用いて治したという逸話が残されています。特に、ガマの花粉を乾燥したものは、昔から生薬として利用されており、やけどや切り傷などに利用されてきました。

## Event. 今月のイベント

特別展「写真家 前川貴行の生き物バンザイ！」 3月28日(土)～10月25日(日)

ロビー展「小さなごみも  
見逃さない!マイクロプラスチックを探せ!!」～3月31日(火)

プチ工房「ストローコースター」 3月11日(水), 13日(金)

博物館講座(総合編)「私たちのふるさと情報」 3月28日(土)

フォトコンテスト「びほろの自然表彰式」「品評会」 3月29日(日)

## Information. 参加者募集

プチ工房「ストローコースター」

●3/11(水), 13(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(300円) ●八重柏誠(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座(総合編)「私たちのふるさと情報」

●3/28(土) 9:30-12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室, 特別展示室 ●無料 ●美幌高等学校生徒, 前川貴行氏(動物写真家), 美幌博物館学芸員 ●申込み不要。対象はどなたでも。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

フォトコンテスト「びほろの自然表彰式」「品評会」

●3/29(日) 9:30-12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室, 特別展示室 ●無料 ●前川貴行氏(動物写真家) ●申込み不要。対象はどなたでも。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

今月の休館日

2日, 9日  
16日, 23日  
30日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

## 01 GREEN COLUMN

グリーンコラム



# 蛍の光

写真・文／鬼丸和幸



先般、イギリスがEU（欧州連合）から離脱を行った模様が、TVニュースで大きく報道されていました。画面の中で、アナウンサーからインタビューを受ける欧州議会の議員たちの背後で、「蛍の光」が流れていたのが印象的でした。

日本の卒業式などで歌われる「蛍の光」は、もともとはスコットランドの民謡（または非公式国歌）である「Auld Lang Syne（オールド・ラング・サイン）」（日本語訳で“久しき昔”）が原曲です。様々な集会の折、よく歌われている歌で、原曲は旧友と再会し、思い出話をしながら酒を酌み交わそうという歌詞となっています。

そんな歌が、なぜ日本では「蛍の光」として、多くの人々に親しまれるようになったのでしょうか。明治初期からスタートした日本の音楽教育の中では、西洋音楽を採用し、教育的な歌詞

をつけることが進められました。「オールド・ラング・サイン」が、日本の伝統的な音階と同じ音階で作られていることもあり、日本人の感性と合い、受け入れられる一つの大きな理由になったのではないかとされています。歌詞については、東京師範学校の稲垣千穎（いながきちかい）が、学問に励むことを褒め称えた中国の故事「蛍雪の功」をもとに作詞を行い、尋常小学校の唱歌として、小学唱歌集初編に採用されるに至りました。

古くから、ホタルを四季の風物詩として愛でてきた日本人にとって、人生の節目で歌われる「蛍の光」は、特別な感情をもたらすものになったに違いありません。

## 02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

# キラキラ光る 石に魅せられて

写真・文／城坂結実



普段から、ネックレスやピアスといった装飾品をつける習慣がないので、宝石には縁のない私。もちろん、ダイヤモンドだのルビーだのといった宝石を手元に置きたいと思ったこともなく、それらに興味を持つことすらありませんでした。

そんなある日、博物館の収蔵庫を片付けていると、紙に包まれた石が箱の中からゴロゴロと出てきました。石を包んでいる紙には、「菱マンガン鉱」や「水晶」、「黄鉄鉱」といった文字が書いてあります。包み紙を開けて、それらの石をよく見てみると、キラキラ光っているではありませんか！

宝石のような光り物には興味がないはずでしたが、キラキラと光る石をじっくりと観察し、種類などを調べていくうちに「キレイなものだなあ」と思うようになりました。野外に出かけて、足元にこんな石が落ちていたら、

気持ちが盛り上がるのもうなずけます。我ながら単純だとは思いつつ、もしかしたら人の“興味”というのは、対象物を意識的に観察するようになることで湧いてくるものなのかもしれません。

キラキラに魅せられたお陰もあってか、無造作に箱に入っていた石は、一つずつ採集日や場所などを記録したラベルがつけられて、収蔵庫に納まりました。実はこの石、網走市にお住いのKさんにいただいたもので、近いうちにみなさんにも見ていただけるように、展示ができたと思います。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 ( 72 ) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

## 学芸員のつぶやき



美幌町内のお宅からひな人形をお借りして、博物館ロビーに展示しました。ひな人形を並べたり小物を飾ったりしていると、華やいだ気分になります。春ももうすぐ！（城坂）